

令和8年度 学年別教育課程表

B 表

(表 面)

教育局 石狩

北海道札幌東陵 高等学校 全日制課程

学科 普通科

学 級 数	第1学年	7
	第2学年	7
	第3学年	7

教科 科目・標準単位数	学年 類型	1 年	2 年	3 年
国 語	現 代 の 国 語	2	2	
	言 語 文 化	2	2	
	論 理 国 語	4	2	2
	文 学 国 語	4	0～2	0～2
	国 語 表 現	4		
	古 典 探 究	4	0～2	0～2
	○ ゼミナール現代文	2	0～2	0～2
	○ ゼミナール古典	2	0～2	0～2
	○ 現 代 文 講 読	2	0～2	0～2
	○ 文 章 表 現	2		0～2
	○ 国 語 探 究	2		0～2
地 理 歴 史	地 理 総 合	2	2	
	地 理 探 究	3	0～3	
	歴 史 総 合	2	2	
	日 本 史 探 究	3	0～3	
	世 界 史 探 究	3	0～3	
	○ 応 用 地 理	4		0～4
	○ 応 用 日 本 史	4		0～4
	○ 応 用 世 界 史	4		0～4
	○ ゼミナール地理	2		0～2
	○ ゼミナール日本史	2		0～2
	○ ゼミナール世界史	2		0～2
公 民	公 共 倫 理	2	2	
	政 治 ・ 経 済	2		2 2
	○ 応 用 倫 理	4		2
	○ 応 用 政 経	4		0～4
	○ ニュース研究	2	0～2	0～2
	○ E S D	2		0～2
数 学	数 学 I	3		
	数 学 II	4	4	
	数 学 III	3		0～4
	数 学 A	2	2	
	数 学 B	2	0～3	0～2
	数 学 C	2		0～2
	○ ゼミナール数学A	2		0～2
	○ ゼミナール数学B	4		0～4
	○ 数 学 活 用	2	0～2	0～2
	○ 応 用 数 学	2	0～2	0～2
	○ 統 計 実 務	2	0～2	0～2
理 学 科	科 学 と 人 間 生 活	2	0～2	
	物 理 基 礎	2	0～3	
	物 理	4		0～4
	化 学 基 礎	2	0～3	
	化 学	4		0～4
	生 物 基 礎	2	2	
	生 物	4		0～4
	地 学 基 礎	2		0～2
	地 学	4		
	○ 応 用 科 学	2		0～2
	○ 物 理 と 生 活	2	0～2	0～2
	○ 生 物 と 生 活	2	0～2	0～2
	○ 物 理 研 究	2		0～2
	○ 化 学 研 究	2		0～2
	○ 生 物 研 究	2		0～2
	○ 科 学 と 安 全	2	0～2	0～2
	○ 人 体 の 科 学	2		0～2

B 表

(裏 面)

北海道札幌東陵

高等学校

全日制課程

学科

普通科

教科	学年		1 年	2 年	3 年
	科目・標準単位数	類型			
保健体育	体育	7～8	3	2	2
	保健	健	2	1	
	○ トレーニング学	2		0～2	0～2
芸術	音楽	I	2	2	
	音楽	II	2		0～2
	音楽	III	2		0～2
	美術	I	2	2	
	美術	II	2	2	0～2
	美術	III	2		0～2
	工芸	I	2		
	工芸	II	2		
	工芸	III	2		
	書道	I	2	2	
	書道	II	2		0～2
	書道	III	2		0～2
	○ 音楽実技	2		0～2	0～2
	○ 書道表現	2		0～2	0～2
外国語	英語コミュニケーション	I	3	3	
	英語コミュニケーション	II	4	4	
	英語コミュニケーション	III	4		4
	論理・表現	I	2	2	
	論理・表現	II	2		2
	論理・表現	III	2		
	○ 実用英語	A	2	0～2	
	○ 実用英語	B	2		0～2
	○ 応用英語	2		0～2	0～2
	○ 英語研究	2			0～2
	○ 基礎英語	2		0～2	0～2
	○ 韓国語	2		0～2	0～2
	○ 韓国文化	2			0～2
家庭	家庭基礎	2	2		
	家庭総合	4			
情報	情報	I	2	2	
	情報	II	2		
	○ 情報発展	2			0～2
理数	理数探究基礎	1			
	理数探究	2～5			
家庭実能	保育基礎	2～6			0～2
	保育実践	2～8			0～2
	服飾手芸	2～4		0～2	0～2
美術	素描	2～6		0～2	0～2
各学科に共通する各教科・科目の計			28	26～28	20～28
主として専門学科において開設される各教科・科目の計			0	0～2	0～8
学校設定教科に関する科目の計			0	0	0
総合的な探究の時間			3～6	1	1
合 計			29	29	29
特別活動	ホームルーム活動		1	1	1
備 考			・「文学国語」を履修する場合は、2, 3年次に連続で履修する。 ・「古典探究」を履修する場合は、2, 3年次に連続で履修する。		

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番縦型とする。